学校だより
2月号

やさしい子　たくましい子　考える子

黒門

発行日　令和8年1月30日
発行者　台東区立黒門小学校
校長　飯塚 雅之

1月往ぬる 2月逃げる ―今を大切にする心―

校長　飯塚 雅之

「1月往ぬる、2月逃げる、3月去る」という言葉があります。年が明けてから春を迎えるまでの時期は、行事や日常が重なり、時間が矢のように過ぎていくことを表した言葉です。

つい先日、新しい年を迎えたと思っていましたが、気が付けばもう2月。校内を歩いていると、子供たちの表情や言葉、学習や生活の様子から、この1年間での確かな成長とともに、月日の早さを強く感じます。

2月3日は節分、そして翌4日は立春です。節分は「季節を分ける日」、立春は暦の上で春が始まる日です。寒さはまだ厳しいものの、日差しや風の中に、少しずつ春の気配が感じられるようになります。昔から人々は、季節の変わり目に心と体を整え、新しい一歩を踏み出そうとしてきました。

さて、日本では昔から、節分に豆をまき、厄払いをするという習わしがあります。豆をまくとき、多くの地方では「鬼は外、福は内」と声を出します。では、外に出す「鬼」とは何でしょうか。もともとは目に見えない悪いものを「鬼」と呼んでいたものが、物語などを通して、今の「赤鬼、青鬼」の姿として伝えられてきたようです。

実は、その鬼は、私たち一人一人の心の中にもいるのかもしれません。すぐにあきらめてしまう心、失敗を恐れて挑戦しない心、友達にやさしくしたいと思いながらも言葉にできない心。誰の心の中にも、そんな鬼は顔を出します。

大切なのは、その鬼について「自分の中に、こんな気持ちがあるな」と気付くことです。自分を見つめ、課題を認めることは、決して弱さではありません。むしろ、次の成長につながる大切な力です。鬼に気付いたとき、「次はこうしてみよう」「今日はここまで頑張ろう」と小さな目標を立てることが、心の鬼退治につながっていきます。

「光陰矢の如し」という言葉があるように、時間は立ち止まってくれません。だからこそ、何となく一日を過ごすのではなく、目の前の学びや生活に心を向けることが大切です。あっという間に過ぎる日々だからこそ、一日一日の積み重ねが、確かな力になります。当たり前のように続く朝のあいさつ、授業への参加、友達との関わり、…。その一つ一つを大切にすることが、自分自身を育てていきます。

今の学年で過ごす時間も、残りわずかとなりました。2月は、次の学年へとつながる大切な「まとめの時期」です。これまでに身に付けた力を確かめ、できるようになった自分に自信をもつとともに、まだ課題として残っていることにも、丁寧に向き合っていきたいものです。

6年生は、卒業まであと30日あまりとなりました。6年生だけでなく、進級する各学年の子供たちが、希望をもって明るく進学・進級できるよう、最後のまとめをしっかりと行っていきたいと思います。

春は、もうすぐそこまで来ています。